

第2回 津久見港カーボンニュートラルポート（CNP）検討会 議事次第

日 時 : 令和5年2月15日(水) 14:00~16:00

場 所 : 津久見市民会館 第3会議室

1 開 会

2 議 事

- (1) 第1回津久見港CNP検討会の振り返りについて
- (2) 津久見港CNP形成にかかるアンケート調査結果について
- (3) 津久見港CNP形成計画における基本的事項について
- (4) 第5期大分県地球温暖化対策実行計画について
- (5) 民間における次世代エネルギー等の利用に関する取組について
- (6) 今後の検討事項について

3 閉 会

第2回 津久見港カーボンニュートラルポート(CNP)検討会 議事概要

日 時 : 令和5年2月15日(水) 14時00分~15時30分

場 所 : 津久見市民会館 第3会議室

開催形式: 対面

【議事概要】

- (1) 第1回津久見港CNP検討会の振り返りについて
- (2) 津久見港CNP形成にかかるアンケート調査結果について
- (3) 津久見港CNP形成計画における基本的事項について
- (4) 第5期大分県地球温暖化対策実行計画について
- (5) 民間における次世代エネルギー等の利用に関する取組について
- (6) 今後の検討事項について

(議事(1): 第1回津久見港CNP検討会の振り返りについて)

事務局より、第1回検討会の議事や主な意見について説明。

(議事(2): 津久見港CNP形成にかかるアンケート調査結果について)

事務局より、アンケート調査の概要と結果を説明。また、アンケート調査結果より津久見港に立地する複数の企業で脱炭素化、低炭素化にむけた検討が開始されていることを説明。

(議事(3)津久見港CNP形成計画における基本的事項について)(別紙1、別紙2)

事務局より、CNP形成にあたり津久見港の特徴等を考慮し、目指すべき将来像(I石灰石・セメント産業におけるグリーン化を支援し、地域社会の脱炭素化に寄与、II港湾のグリーン化・高度化を実現し、津久見の企業や港湾利用者のESGやSDGsに貢献)を説明、またCNP形成にむけた方針(①水素等の次世代エネルギー受入環境の構築、②港湾立地企業における次世代エネルギー等の活用促進、③公共ターミナルにおける次世代エネルギーの活用や港湾機能の高度化)を説明し了解をいただいた。

<構成員>

- ・メタネーション装置や次世代エネ貯蔵施設の保管タンクなどの設備導入には、新たな土地が必要となる。津久見は土地が限られているため、津久見湾内の用地拡幅も視野に検討して欲しい。

<事務局>

- ・湾内や山側など広域な視点で、構成員と調整しつつ対象地を検討していきたいと考えている。

(議事(4)第5期大分県地球温暖化対策実行計画について)

大分県生活環境部より、大分県における温暖化対策計画の目標設定について説明。

(議事(5)民間における次世代エネルギー等の利用に関する取組について)

構成員の民間企業より、次世代エネルギーの取組事例を紹介。アンモニア及び水素等を活用したCNP製品や技術の紹介、カーボンリサイクル技術の将来展望について説明。

(議事(6)今後の検討事項について)

事務局より、CNP形成に向けて議論する事項について説明。また、構成員等に対してアンケート・ヒアリング調査を実施し、「水素・燃料アンモニア等供給目標」、「温室効果ガスの削減計画」等について検討を行うことを説明。

<構成員>

最終的には津久見港としての計画を公表するとのことであるが、各社が2030年、2050年に向けた将来像のために各社何を取り組まなければならないのか。その際に水素をどのようにするのか等が不明な状態でアンケートをやる意味、どのような回答を望むのかが見えてこない。

<事務局>

アンケートの仕方、聞き取り、反映の仕方は、企業の方と綿密に連携しながら形にして実施していきたいと考えている。

津久見港の特徴等を考慮し、「**目指すべき将来像**」を下記のとおり明確にし、本計画を推進する。

～津久見港の将来像～

I 石灰石・セメント産業におけるグリーン化を支援し、地域社会の脱炭素化に寄与

現在、津久見港は石灰石やセメントなどのインフラ等を支える重要な素材を供給しており、立地する石灰石・セメント産業は地域を支える重要な産業拠点である。

立地企業では、脱炭素化に向けた様々な取り組みが検討されており、将来的に水素等の次世代エネルギーの活用が見込まれる。

将来の脱炭素社会においても、石灰石・セメント産業が担ってきた役割を継続していくためには「大量、安定、安価な次世代エネルギー」の調達やカーボンリサイクル技術であるメタネーション等の新技術の導入が求められている。

そのために、港湾立地企業と行政の協働による次世代エネルギー受入環境の整備や港湾地域への新技術の導入を支援し、地域社会の脱炭素化に寄与する

II 港湾のグリーン化・高度化を実現し、津久見の企業や港湾利用者のESGやSDGsに貢献

現在、津久見港は、日本全国の4割を占める石灰石を移出しており、日本屈指の石灰石の供給拠点である。

将来の脱炭素社会においても、供給拠点であり続けるためには、環境志向の高い荷主等のニーズに対応した港湾サービスの提供が求められている。

そのために、「次世代エネルギー等の活用」や「港湾機能の高度化」を図ることで、港湾の「グリーン化・高度化」を実現し、津久見の企業や港湾利用者のESGやSDGsに貢献する。

「津久見港の目指すべき将来像」に基づき、その実現に向けた行動計画である「**CNP形成に向けた方針**」は、以下の3本柱で取組を展開する。

目指すべき将来像

I 石灰石・セメント産業におけるグリーン化を支援し、地域社会の脱炭素化に寄与

II 港湾のグリーン化・高度化を実現し、津久見の企業や港湾利用者のESGやSDGsに貢献

CNP形成に向けた方針

①水素等の次世代エネルギー受入環境の構築

石灰石・セメント産業としての役割を継続し、地域社会の活性化のため、大量、安定、安価な次世代エネルギーの受入環境の構築を図る。
次世代エネルギーの需要に対応したインフラや供給体制等の受入環境整備に向けた検討を進める。

②港湾立地企業における次世代エネルギー等の活用促進

港周辺に立地するセメント関連企業のメタネーションによる合成メタン製造等の技術開発の取組みを実現するため、港湾立地企業と連携しカーボンリサイクルを支援する。
キーテクノロジーであるCCUや次世代エネルギー等の社会実装に向けた実証実験等の取組の場として、港湾地域を活用することにより次世代エネルギー等の活用を促進する。

③公共ターミナルにおける次世代エネルギーの活用や港湾機能の高度化

港湾のグリーン化・高度化を実現し、津久見の企業や港湾利用者のESGやSDGsに貢献するため、環境負荷ゼロの実現を目指す。
公共ターミナルにおいては、ターミナル施設等の脱炭素化に取り組むとともに、港湾機能の効率化、高度化を図る。
港内を出入する車両や船舶においては、トラック等のFC化や、停泊中の船舶への電力・燃料供給施設等の整備に向けた検討を進める。